

園からの便り
ひぐらし

5

2017/MAY
誠美保育園

大地と海と、見えない空と

きらきらと光る新緑、そして木漏れ日
が映し出す影との力強いコントラスト
は、さあ進めと、私たちに生きるエネ
ルギーを与えてくれているようです。

先日の懇談会後の午後、親父の会の
面々によって、園内の畑の畝づくりが行
われました。

まずは雑草取りから始まるのですが、
なんとその中に、冬に収穫しそびれ、見
事、越冬を果たした立派なほうれん草の
一群を発見。それはそつと取り分けてお
いて、いよいよ硬くなった土の掘り起こ
し、そして耕作へと入ります。

一昨年の増築による畑の移動で、新た
な「開墾」を余儀なくされ、親父たちを
苦しめた昨年度。今年は多少は耕しやす
くはなっていたのですが、それでもひと
冬を放っておいた土を畑に戻すのは、か
なりの労力です。それに、まだまだ除き
きれいな石や増築時のガラが残って
いて、それを除去しながらの作業は、ま
だまだ、親父たちの手をわずらわせるも
のでした。

この辺りの土は粘土質が多いのか、鋤
(すき) がコツンと石に当たったのかと
掘り起こしてみると、硬くしまった土の
塊なんていうことが頻繁にあります。

農作物に詳しい親父さんの一人による
と、トウモロコシを植えれば、根っこが
それを砕いてくれるとのこと。なるほど、
だから開墾された、かの北の大地では、
たくさんのおとうもろこしが育てられてい
るのかも。芋虫(幼虫)の多い土では根
が食われる…なので虫の嫌う石灰を多め
に入れ、石の多い土では、それを避けて
育つ根菜は形が歪む、土を細かくすれば
するほど、水持ちが良い…。

皆で汗を流しながら、こういったこと
を教えてもらっていると、足下の土の中
で根や虫や水や肥料が、戦い蠢きあつて
いる映像がだんだんと頭に浮かんで来る
もので、そういつた目に見えない地中を
語るこの親父さんはすごい…と聞き
入ってしまいました。

そして「土」と戯れた次は…「水」で
しよう…ということ、翌日の日曜日は、
海へ魚釣りに出かけてみました。

春の風を切つて漕ぎ出た大海原、その

ど真ん中で、針に生き餌に通すことに孤軍奮闘する海の男が一人。その姿に技量を見とつた船長が、手取り足取り、面倒を見てくれました。

海釣りをしたところのある方はご存知だと思いますが、海の釣りでは、針の少し手前に、小エビや魚のミンチを入れた小さなカゴを付けて、それで魚を誘う釣り方があります。なので、ぐいっと一瞬強く竿を強く揺らし、そのカゴの中の餌を海中で散らすのですが、「ダメダメ、それじゃ散らないよ」と船長。どうして見えない海中の様子がわかるのか：不思議に思いながら手ほどきを受けます。

さらに、「海底から2メートルくらいにいるから、少し巻き上げて…」と確信に満ちた言葉に：ギョギョッ！どうしてそれがわかるのですか！…さすがにこれは、魚群探知機で見ているのですね。それでも、船長の話を聞くうちに、カゴから散る撒き餌に、夢中になって集まる魚の群れを：感じて来るのでした。

見えないものを見る人：この船長も、私にすればすごい人です。きっとこれが、専門家と言われる条件なのかもしれませ

んが、その言葉に耳を傾けているうちに、私にも見える気がしてきたのは、その時、私も懸命に「見よう」としていたからなのかもしれませぬ。

太公望曰く、魚は「釣れる」のではなく、己の腕で「釣る」ものなり。もの言わぬ子ども的心情もまた、「見えない」のではなく「見よう」としない己を、まず疑ってみるものなのかもしれません。

先の畑作業、それが終盤に差し掛かった頃、みるみる空が暗くなり、突然のにか雨に襲われました。想定外の雨：今日のメンバーには、「空」を見ることのできる親父はいなかったようで：こんな時のスマホの雨リーダーでは、雨雲は小一時間で通り過ぎる模様。

カレンダー	
5月	9 (火) 発育測定 (O1)
	10 (水) 発育測定 (K)
	11 (木) 乳児健診
	12 (金) 発育測定 (2)
	16 (火) 防災訓練
	19 (金) 保護者面談終了 (O1)
	22 (月) 保護者面談開始 (2) 保育参観週間 ※ 26(金)まで
	30 (火) 誕生会
	31 (水) 保護者面談終了 (K)



ならばと、テラスの子どもキッチンで、冬越しのほうれん草を炒めながら待つことに：これもまた、よきかな。親父たちに感謝。

園長 折井誠司

● 編集 誠美保育園
● 発行人 折井 誠司
● 印刷所 誠美保育園
● 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-675-1551
ファックス 042-677-5643
Email sebi@nokken.jp
http://nokken.jp/